



園芸作物栽培に関する

これからの対策

Q & A

気象庁の3ヶ月予報では、今冬は気温、日照、降雪(降雨)量とも平年並みと予想しています。しかし、前年の冬は積雪量が非常に少なかったため、平年並みという言葉に油断してしまいがちとなるので、気を引き締めて乗り切ってください。



大門 優  
園芸アドバイザー

お問合せ先  
東部ふれあいセンター内営農課  
TEL.51-8004  
TEL.070-1296-1499

◎圃場の管理

冬期間は圃場の滞水が発生しないよう注意してください。また、圃場に残っている秋野菜は積雪までにポールを立てるなどの目印をするか、収穫して家の近くで保存しておきましょう。野菜の保存については前年の28年1月号を参照してください。

◎新年度に向けて

今月は年間で最も農作業の少ない時期です。今月はあらためて野菜作りの基本について確認しておきましょう。

○野菜作りの基本

野菜を作るからには良いものをたくさん取りたいと思うのは当たり前のことです。圃場の土質・排水性・肥料・水・温度・湿度・日照・風・霜・雪などの環境を整えることが大切です。

- ① かなり密植となつていませんか
- ② 肥料を多く施用すれば立派な野菜がとれると考えませんか
- ③ 圃場排水性の改良をもう一度心がけませんか
- ④ 有機質肥料を使つて美味し野菜がとれると考えませんか
- ⑤ 病害虫防除が徹底されていないか
- ⑥ 適期播種、適期定植が守られていないケースも少なからずあるか
- ⑦ 園芸資材の利用をもう一度考えませんか
- ⑧ 優良な種苗の使用を心がけませんか
- ⑨ もっと土壌の改良を図る必要があります。



狭い畝に3条に播種され肥大が不良の大根。



株元に化成肥料が過剰に施用され株が枯死してしまった。



側溝が排水を阻害している。

① 播種や苗を植え付けるときに間隔が広いように思えても間隔を詰めてしまいがちです。密植になることで通風採光が不良となり、病害虫の発生が多くなり、野菜の生育も遅れがちとなります。特に秋野菜の白菜、大根などは結球や肥大の遅れが顕著となります。キャベツでは小球となつてしまいがちです。

② 野菜は自らの健全な葉で光合成を行い栄養を作りだして成長してゆくのであって肥料を直接体内に取り込み成長するものではありません。更に化学肥料を使い過ぎるとかえって野菜の根を傷め生育がおかしくなってしまう。動物と植物では栄養の取り方に根本的な違いがあることを理解しなければなりません。

③ 丹南地域の土壌は粘質で空気層が少ないため、ただでさえ根が張りにくい状況にあります。さらに排水性が良くないため圃場での滞水が良く見られます。野菜の根は水浸しの土中には伸びていけないので生育が不良となり株も小さく下葉が黄色く枯れあがりやすくなります。このような状態では良い野菜の収穫は望めません。

④ 肥料の種類が味や品質に直結するものではありません。重要なのは施用量と施肥の仕方です。なお、有機質肥料は土中で微生物などによって分解されなければ野菜は吸収することができません。したがって地温が低いと微生物の活動が鈍るため肥効が出にくくなるのです。

⑤ 近年、害虫の発生が非常に多くなつてきています。このごろの暖冬化で害虫の密度が上がってきています。大半が蛾などの幼虫か甲虫類の幼虫と成虫です。病気の原因は殆どが糸状菌(カビ)です。よく農薬が効かないということに聞きますが、農薬の使い方にも問題が多いように思います。野菜の作付けにあたって土壌処理剤を施用しておくことが必須の作業となつてきています(前月号を参照のこと)。さらに台風の通過など大雨・強風にさらされた後の予防殺菌剤の散布も必須となつています。野菜作りで農薬を使わないなどのこだわりを持っている方も少なくありませんが、農薬使用に代わる病害虫被害防止策の知識がなければ良いものを収穫することはできません。農薬散布にあたっては薬液量がかなり少ない傾向にあり十分に作物体にかかっているケースがあります。野菜の生育段階にもよりますが10㎡あたり2〜3ℓ必要となります。また、キャベツ、ブロッコリー、サトイモ、ネギ、タマネギ、ニンニクなどは葉の表面が水をはじくので展着剤を加用しなければ農薬の効果が不十分となります。また、散布も加圧出来る噴霧器を使って葉裏などにかけ残しが出ないように注意して行うことです。

⑥ 野菜の蒔き時、植え付け時を間違つて十分な生育量が確保できません。春は遅霜にやられないよう注意しなければなりません。またアブラナ科野菜などは寒さに遭遇することで花が咲いてしまい収穫に至らない場合もあります。秋野菜では寒さに向かう作型になるため、播種・定植の1日の遅れが収穫の3日遅れになりますし、時期を外しますと収穫に至らず雪の下になつてしまします。それぞれの作物には生育適温がありますので適期があまり外れないようにしてください。

⑦ 園芸資材は数多くあります。もっとも一般的なものはポリフィルムで主に保温、防草、肥料の流出防止などの目的で使用されるマルチと、保温・雨よけのトンネル用ですがこれも用途に応じて様々な種類があります。ほかに遮光ネット、防虫ネット、ベタがけ資材など野菜生産に効果的な資材が多くあり上手に利用することで効果が上がります。

⑧ 種苗は信頼のあるものを使いましょう。苗は老化していないもの、根の元気なものを使用しましょう。種もできれば信頼性の高い元詰品が安心できます。

⑨ 丹南地域は重粘土質の圃場が広く分布しており水稲には適していますが野菜の栽培をするにはかなり土壌改良をしなければなりません。最善の方法は完熟堆肥の連年施用ですが、丹南地域では良質堆肥の入手はなかなか困難で実際は未熟な有機物の多用が見られます。未熟な堆肥を根菜類やイモ類などに施用すると虫害を被り肌荒れやすくなります。土壌改良効果が確実に上がる方法は排水性の良い土を客土することです。堆肥は投入をやめればいずれなくなりませんが客土した土はなくなることはありませんから一定の効果を持続させることができます。なお、排水が効かない圃場では30cm以上の畝を立てることで根の伸びる範囲を広く取れるようにしてやる必要があります。

前年度多発生した病害虫  
(前月号も参照してください)



メロンの茎に食い込むウリハムシの幼虫。株が枯死に至る。



軟腐病も多くの野菜に発生する。水で拡がるので、排水の良くない圃場で被害が拡大する。



アブラムシは種類が多く、殆どの野菜に寄生する。



サビ病はネギ類の野菜に発生する。病斑の進展が速く防除が難しい。



キスジノミハムシは成虫もウジムシ状の幼虫も主にアブラナ科野菜を食害する。



アブラナ科野菜に発生するネコブ病。生育を阻害する。



ネキリムシも多くの野菜に害を与える。株元から食い倒すので被害は大きい。



そうか病は鶏糞など未熟有機物や石灰類の過剰施用で発生が助長される。